



奈良県マスコットキャラクター
せんとくん
©NARA pref.

奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
(奈良県保健環境研究センター内)



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 5 月）

（調査週）平成 24 年 第 24 週 6 月 11 日（月）～6 月 17 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.34	→	→	→	→～↓
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.49	→	→～↑	→	→～↓
3	水痘	1.17	→	→	→～↓	↑
4	咽頭結膜熱	0.54	→	→～↓	→	→
5	流行性耳下腺炎	0.37	→～↑	↑	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は172例で、前週報告の137例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③水痘、④流行性耳下腺炎、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（104例）は増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（25例）も増加。水痘の報告数（19例）はやや増加。流行性耳下腺炎の報告数（8例）はほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（6例）もほぼ横ばい。奈良市保健所および郡山保健所両管内共に、眼科定点と基幹定点からの報告はなかった。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は季節の変わり目で風邪などが増えている。インフルエンザは完全になくなった模様です。感染性胃腸炎はウイルス性ではノロと思われるが増えている。細菌性も多く半々程度である。保育園でアデノウイルス感染症（咽頭結膜熱）が流行していた。溶連菌咽頭炎もみとめられる。流行性耳下腺炎が増加傾向にある。咳がひどくマイコプラズマを疑わせるものは減ってきた模様。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、219例から168例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘、RSウイルス感染症および流行性耳下腺炎の順であった。感染性胃腸炎は104例、A群溶連菌咽頭炎は22例といずれも横ばいである。眼科定点からは、流行性角結膜炎の報告が、桜井保健所より1例、葛城保健所より1例、計2例（1才、50才代）あった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は多くなくやや減少傾向。アデノ様の短期の高熱、咽頭発赤例が多いが検査実施例で陽性を確認出来る例は少ない状況。感染性胃腸炎はノロウイルス様の嘔吐を主とする例が多い。乳児で検査実施確認例もある。マイコプラズマ様の例も散見。その他A群溶連菌感染症、水痘の流行が続いている。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第23週→第24週）は25例→36例と増加。報告のあった疾患は、①水痘（7例→15例）、②感染性胃腸炎（9例→14例）、③A群溶連菌咽頭炎（4例→5例）、④突発性発疹（1例→1例）、④ヘルパンギーナ（2例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 外来数は多少変動があるがあまり多くない。感染性胃腸炎は少なくなったが、ノロと思われる家族例などもある。キャンピロバクターが成人例の他、1歳児でもあった。水痘が流行中。A群溶連菌咽頭炎は成人例も見られる。マイコプラズマ肺炎様はその後増加見られず。（山本 記）

【全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 5 月）】

平成 24 年 5 月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

5 月報告患者数（平成 24 年 6 月 13 日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	12	5	8	7	1	1	34
3 類	細菌性赤痢	1						1
4 類	レジオネラ症			1				1
5 類	梅毒	1						1
5 類	風しん	1	1		1			3

（感染症情報センター 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

